

学校教育における食事指導の環境教育的展開の提案 びわ湖フローティングスクールを中心として

1517 立石 祥子
指導教官 市川智史助教授

1. 研究目的

本研究では、食事から生じる環境への負荷や自然の恵みなどの環境教育的視点から、びわ湖フローティングスクールでの食事指導に焦点を当てつつ、日常の給食指導や宿泊体験学習での食事指導にも生かせるような指導の提案を行うことを目的とする。

2. 研究方法

食事に関わるエコライフについて調べる。
びわ湖フローティングスクールでの食事の実態や指導について調べる。
小学校での食事指導について調べる。
環境教育的指導方法の提案を行う。

3. びわ湖フローティングスクール調査

(1) 乗船調査

【ねらい】 環境学習を行う船として、どのように食事指導が行われているのかを調査。

【結果】 環境教育視点からの食事指導は行われていなかった。

(2) 食事の残渣量

フローティングスクールでは、平成9年度から食事の残渣量を計測している。そこで、平成9～平成15年度の記録を基に、次の3つの項目について比較、考察した。

各年度の年間一人当たり残渣量

月別の一人当たり残渣量 (g)

地区別一人当たりの残渣量

(3) 小学校の聞き取り調査

【対象】 食事の残渣量が多い小学校4校と、少ない小学校3校。

【結果】 小学校によって、食事指導の大きな違いはみられなかった。また、環境教育的視点からの食事指導は行われていなかった。

4. 環境教育的食事指導の展開の提案

上記の調査によって、フローティングスクール、また小学校において環境教育的食事指導は行われていないことがわかった。そこで、「食糧の生産、配分及び消費についての理解を培い、環境問題の面からエネルギー問題を考慮した食事教育を行う。」ことをねらいとした資料(フローティングスクール用、学校用)を作成した。

フローティングスクールにおいては、児童向けのしおりに作成した資料を盛り込むとともに、4回の食事の前に5分ずつの食事指導を行う。

表1 フローティングスクール用資料を用いた食事指導の展開

	指導のポイント
1回目 昼食	フローティングスクールにおいて地元の特産品を使用していること。 地産・地消と輸送エネルギーについて。
2回目 夕食	フローティングスクールにおける食べ残しについて 食べ残しによりエネルギー負荷が起きていること。
3回目 朝食	なぜエネルギーの過剰消費がよくないのか。 エネルギー消費量の増加に伴う地球環境問題について。
4回目 昼食	地球温暖化の影響に関するクイズ。 食事における資源・エネルギー消費に関しての啓発。